

【輪島市】

輪島市は、能登半島北西部に位置し、輪島塗や輪島朝市で有名な人口約3万人の市です。輪島港は、かつての北前船の寄港地でもあり、現在は沿岸漁業の拠点として魚介類の水揚げが石川県内一位となっています。平成11年に日本の棚田百選に選ばれた「白米千枚田」は、平成23年に世界農業遺産に認定されています。

【調査概要】

輪島市は、平成19年3月に起きた能登半島地震、また過去に発生した土砂崩れや川の氾濫、津波被害などの経験から防災意識が高く「災害に強い安全・安心のまちづくり」の推進に向けた取り組みが行われています。

とりわけ、福祉避難所については能登半島地震の際に国内で初の設置運営を行い、災害時の弱者である要配慮者（高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児及び病弱者）への対応の先例となり、26年9月現在には20事業所と福祉避難所設置・運営協定を締結しています。さらに実際の被災経験から浮き彫りになった課題を解決するために、誰もが活用できるマニュアルの策定と平常時における要配慮者本人参加による避難訓練を行っています。



輪島市

「災害が起こる前に、準備できることはやる」という方針のもとに、訓練によるマニュアルの検証と修正を重ねています。また、防災士の育成や自主防災組織結成推進のための補助金制度を創設するなど地域防災力の向上と防災意識の啓発にも努めています。

隣接する町には志賀原子力発電所があり、市内にも30キロメートル圏内に含まれる地区があるため市役所1階には環境放射線監視データの表示端末が設置してありました。

輪島市は、本市と立地条件など共通点も多いことから、防災対策を進めていくうえで大いに参考になりました。本市においても防災意識向上のための取り組みの必要性や、訓練による検証、習熟の必要性を再認識しました。

文教厚生委員会

平成26年9月24日から26日までの3日間、北海道本別町の「ごみのリサイクル事業の取り組み」についてと同道新十津川町の「総合健康福祉センターゆめりあ」について行政調査を行いました。

【本別町】

本別町は、北海道十勝の東北部に位置し、総面積は本市の3倍の約400平方キロメートル、人口約8千人を有します。半分以上が山林で覆われ、十勝特有の大陸性気候で夏と冬の寒暖差は大きく、一年を通じて降水量が比較的小さいのが特徴です。

かつては林業が盛んでしたが、近年の産業の中核は農業と工業で、特に地場産品の加工を行う工業が発展しています。

「ともに学び、支えあい、活力のあるまちづくり」をキャッチフレーズに、このまちで学び働き住んで良かったと思えるまちづくりを目指しています。

【調査概要】

環境にやさしいまちづくりをめざし、町民と行政が一体となった取り

組みが行われています。平成15年度にはごみのリサイクル率が道内1位となり、以来、高いリサイクル率を維持しています。

町は、平成14年度からごみの分別方法を4種類から17種類へと変更しようとしたが、住民の間には大きな動揺と戸惑いが生じたため、町は本格的スタートに先立ち、住民へごみの分別方法の試行をしたり、各地域、各団体、会社等へ出向いて出前講座を実施し住民との意見交換などを行っています。実に150か所、延べ7千人に説明を行っています。

また、各地域では、自治会役員と世話人が早朝からゴミステーションに立つて指導したり、さらにはごみ袋に名前を書くなど地域役員と住民相互の努力の結果、リサイクル収集効率は向上し、ごみの分別も進みました。ごみ排出者の自意識を高めることによって、結果的にごみの減量化にも効果があつたとのことでした。

現在、本市のごみ処理の状況は、管内の人口が減少傾向にあるにもかかわらず、ごみの減量化には至っていないのが現状です。さらなるごみの分別と減量化を進める必要を強く感じます。市議会としても行政と一体となり知恵を出していきたいと感じました。